

消防防災科学技術賞について

消防庁消防研究センター

1 はじめに

消防防災科学技術賞は、消防防災科学・技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「消防防災機器等の優れた開発・改良を行った者」、「消防防災科学に関する優れた論文を著した者」及び「原因調査に関する優れた事例報告を著した者」を消防庁長官が表彰する制度です。平成9年度（自治体消防50周年）にスタートし、平成21年度には「原因調査事例報告」の区分が創設、平成26年度には制度名を現在の「消防防災科学技術賞」と改め、平成28年度で20年目を迎えます。

募集区分には、「消防職員・消防団員の部」と「一般の部」の2つがあり、それぞれに「消防防災機器等の開発・改良」と「消防防災科学に関する論文」、さらに、消防職員・消防団員の部には「原因調査に関する事例報告」の募集区分があります。平成

年度	これまでの経緯
平成9年度	自治体消防50周年を機に制度が創設された。消防庁が主催し、消防研究所が事務を担当
平成11年度	「奨励賞」が創設された。
平成13年度	消防研究所が独立行政法人となったことから、消防庁及び独立行政法人消防研究所の共催により実施することとなった。
平成18年度	消防研究所が廃止され、消防大学校消防研究センターが設置されたことから、消防庁主催で実施され、消防研究センターが事務を担当することとなった。
平成21年度	「原因調査事例報告」の区分が創設された。
平成26年度	制度名が「消防防災科学技術賞」へ変更された。（H26は、旧制度名「消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例報告に関する表彰」を並記）

表1 消防防災科学技術賞の歴史

27年度は、奨励賞も含めると、24件の作品が表彰されました。

表彰される作品には、高度な研究開発に関するものもありますが、消防職員・消防団員が日頃から行っている機器の改良や工夫を、全国の消防に広めていくことも本制度の目的の一つになっており、アイデアに富んだ作品も含まれています。

募集区分		平成27年度の表彰数
消防職員・消防団員の部	消防防災機器等の開発・改良	5
	消防防災科学に関する論文	4
	原因調査に関する事例報告	10
一般の部	消防防災機器等の開発・改良	2
	消防防災科学に関する論文	-
奨励賞		3
合計		24

表2 募集区分と平成27年度の表彰数

2 消防団員の受賞について

これまでの消防団の受賞実績は、優秀賞が6件、奨励賞が9件で、日頃から使っている器具の改良から、最新のICTを活用した機器の開発まで、消防活動の効率化や安全を目的とした多岐にわたった作品が受賞しています。

平成27年度の受賞作品全体では、梯子の改良や透明樹脂製の消火器などすぐにでも現場で活用できる作品がある一方、消防職員から煙流動に関する高度な論文も寄せられました。消防団員からの応募作品としては、日本橋消防団の作品「ほねプロン」が、「一見単純だが、あわてている時になかなか心

年度と賞区分	作品名	受賞者所属団体
平成 27 年 優秀賞	ほねブロン	日本橋消防団
平成 27 年 優秀賞	防火衣等収納システムの 開発	豊橋市消防本部、 豊橋市消防団
平成 26 年 奨励賞	消防用ホース固定金具の 開発	豊橋市消防本部、 豊橋市消防団
平成 25 年 奨励賞	救命扉の開発	越前市消防団
平成 25 年 奨励賞	可搬ポンプ用ワンタッチ吸 管ストレーナー	滝野川消防団
平成 24 年 優秀賞	簡易式万能ジャッキの改良	穴栗市消防団
平成 23 年 奨励賞	カーナビを活用した消防水 利情報表示システムの開発	四日市市消防団
平成 17 年 奨励賞	消防ホース巻き機の開発	奈良市消防団

表 3 消防団による受賞作品例（平成 17 年度以降）



消防団の受賞作品例(左:防火衣等収納システムの開発、
右:簡易式万能ジャッキの改良)

「臓の場所はわからないので大事な取組」と、アイデアとそれを用いた救命救護訓練への取組が、選考委員から高く評価され、優秀賞を獲得しました。



小学校での救命救護訓練で「ほねブロン」を活用している様子

3 平成28年度の募集について

平成 28 年度の募集は、平成 28 年 4 月 1 日（金）から 5 月 6 日（金）までの間、これまでどおりに消防研究センターが応募窓

口となって行われます。応募要領と応募様式などの詳細は、以下の消防研究センターホームページにおいて、ダウンロードが可能です。

URL : <http://nrifd.fdma.go.jp/>



作品募集のポスター

なお、表彰作品は平成 28 年 9 月上旬に公表され、11 月に行われる表彰式において、消防庁長官より表彰状及び副賞が授与される予定です。また、第 64 回全国消防技術者会議（平成 28 年 11 月、ニッショーホールで開催）において、受賞者による表彰作品の口頭発表と展示発表が予定されています。

4 おわりに

本制度は、機器の改良や工夫の紹介のみならず、アンケート等に基づく実態調査や考察、事故予防・被害軽減の具体的な手法なども論文として表彰対象となっています。消防職員・消防団員が日頃から行っている調査や工夫など、日頃の取組を全国で紹介する機会であり、本年度も数多くの作品応募があることを期待しています。

